



今年も色々・・・

2016年も残すところあと2日。今年も動物園では色んなことがありました。しかしこんな対策は初めてのことでした、それも年の瀬に・・・鳥インフルエンザ。

今年の後半、特に11月以降は、ゾウ会議（市原）やSAGA（山口）、ブロック園館長会議（宇都宮）、エンリッチメント大賞受賞式（東京）など泊りがけの出張が立て続けに入っていたほか、県北子ども大学や地域での講演なども3件入っており、そんな間隙を突くかのよう
に鳥インフルエンザ問題が発生し、その対策にも追われ、気がついたら年の瀬を迎えていた、そんな年末になってしまいました。

茨城では過去にも養鶏場で鳥インフルエンザが発生したことがありましたが、その時はこれほどの問題には発展しませんでした。今回は全国で散発的に発生し、ここ茨城でも水戸市を中心に野鳥への感染が相次いで確認されています。また秋田や名古屋の動物園では園内での感染により展示鳥が処分されており、決して対岸の火事とは言えない状況が続いているのです。動物園は屋外の施設、このためどうしても野鳥の侵入は避けられません。



「ペンギン舎・思ったほど見えにくくない？」



「タンチョウ舎・意外と見える」

当園でも展示ケージに野鳥が侵入しないよう二重にネットを張りました。また、カモやサギなどが飛来しないようケージのない滝付け池のアヒルやバリケンなど鳥たちを収容し池の水を抜きました。お客様の出入りについても消毒マットを通過してもらったり、出入り業者

の車は消石灰帯を通過してもらうなど、職員皆で話し合い、ウイルスを持ち込まない・持ち出さないなどの対策をとってきました。お客様にとってはマットを通過したり、鳥が見えにくかったりとかかごと不便をかけるかもしれませんが、動物たちを守り、そしてお客様の安全・安心にも十分応えていかなくてはなりませんので当分の間はご理解頂きたいと思ます。



《水を抜いた滝付き池》



《お客様出入口（左）と裏門》

来年はトリ年。鳥に関するイベントも若干縮小しますが、それでも鳥たちの知られざる能力や魅力を伝えていければと思っています。

来年もかみね動物園は上昇気流に乗ってさらに羽ばたいていきますので、どうぞよろしく願いいたします。

2016年12月29日

エンリッチメント大賞表彰式に出席してきました

いきなり観光地のお土産のようなタイトルで始まりましたが、先にお知らせした通り、当園が大牟田市動物園とともにエンリッチメント大賞2016を受賞し、その表彰式や受賞者講演に出席してきました。日時は12月3日（土）13時30分からで、場所は東京大学弥生講堂のホールです。当園では2012年にも受賞しており今回で2度目の出席ですが、今年は紅葉が特にきれいで、東大構内の銀杏が息をのむほど美しく、午後の陽射しの中で黄金色に輝いていました（あ、その匂いもかぐわしく）。



《表彰式》

今回の受賞理由は「総合的な取り組みと市民参加によるサポート体制の構築」というもので、何やらハイグレードな感じです。というのも、こちらから応募したものはコツメカワウソやカバに対する具体的なエンリッチメント策で、担当の中本飼育員と井上飼育員が「こんなので出していいですか」と聞いてきたので、「ま、大賞狙いでなくてもこんな取り組みしてるってことをアナウンスする意味でいいんじゃない？」的動機で出したものですから、その2倍返し、3倍返しの受賞理由にちょっと園全体がざわざわした感じになっちゃいました。受賞者講演もどうするか悩んだのですが、まずはきっかけとなった応募のそれぞれの取り組みを紹介し、そのうえで全体的なまとめを私がやればいいのかということで3人が登壇することに。あとで思えば、この「とってつけ感」満載の作戦が裏目に出て、時間的制約の中で十分な発表ができなかったのが悔やまれました。



《セレモニーが終わりちょっとリラックス》

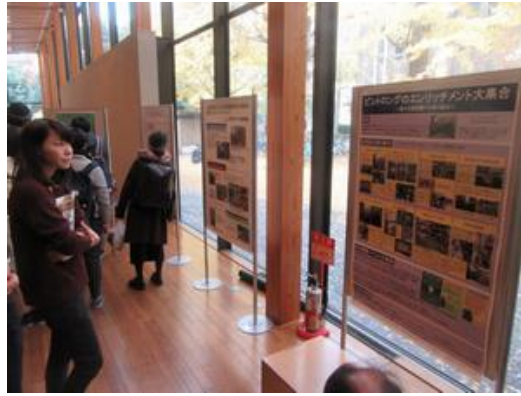
そこへいくと全体的な取組を一人でまとめた大牟田さんの発表は、とても分かりやすく、また内容的にもエンリッチメント委員会の存在やデータとして蓄積するなど、システム化されたエンリッチメントという点で大いに見習うべきものがあると感じました。



《受賞講演 左：大牟田市動物園の伴さん、右：当園の井上飼育員》

環境エンリッチメント（正式にはこう言います）は、動物福祉の観点から動物たちが生き生きとして暮らしやすい豊かな環境を創ることを目的に行う具体的な取り組みのことで、欧米

では主流になっている考え方をNPO「市民ZOOネットワーク」さんや作家・川端裕人さんなどが広く一般の方に向けて発信してきました。



《会場風景:ポスター発表》

当園が2012年に頂いたのは「チンパンジーの森の植樹祭と群れづくり」で、市民とともに取り組む姿勢やそれにより2例の繁殖を含む群れづくりが順調に進んだことなどが評価されたものです。この受賞をきっかけに園内のあちこちでエンリッチメントを意識した動物たちの環境向上策が続けられてきました。フィーダー（餌箱）の設置や、給餌の工夫、遊具の導入や、環境改善など細かいものまで含めると約70程度の具体策があげられるようになりました。そういった意味では、1次審査を通った段階で主催者の市民ZOOネットワークさんが現地調査に来た時、「総合的」と判断されたのかもしれませんが。



《会場風景:サイレントオークション》

また、エンリッチメントは動物本来の行動が発現するだけでなく、それを見ているお客さんも楽しく学べる、という点ではまさに一挙両得なツールでもあると言えます。動物が喜び、お客さんが喜び、それを企画した飼育員もそれを見て喜び更なるエンリッチメント策を考える、一石二鳥どころか三鳥にも四鳥にもなるんですね。また現在、当園では動物の治療にも役立つハズバンドリートレーニングなども取り組み始めています。すでにトラ・ライオンなどの採血には成功しており、チンパンジーもその前段ぐらいにまでは来ているところです。そうした取り組みも先行する大牟田さんと歩調を合わせながらデータの共有なども図っていければと思っています。審査員も務めた川端裕人さんの基調講演にもありましたが、エンリッチメントの新たな地平を切り開いていく意味でも更に知見を広めながらまい進していきたいと思います（ただ当園の性格上、肩の力を抜いて・・・ですけどネ）。

※市民ZOOネットワークの皆様、審査員の皆様、他薦を頂いた皆様、その他当園を支援下さっているすべての皆様、ありがとうございました。



《記念の盾》

2016年12月5日

過去の一覧

[令和6年](#)

[令和5年](#)

[令和4年](#)

[令和3年](#)

[令和2年](#)

[令和元年](#)

[平成30年](#)

[平成29年](#)

平成28年